

地域リハビリ支援報告書

支援対象者) ○○ ○○様

居宅介護支援事業者) ○○居宅介護支援事業所 (○○ ○○様)

支援日時) 令和○年○月○日 ○時○分から○時○分

支援目的) 1. 自宅の屋内外の移動の評価と必要な支援の検討
2. 日常生活活動の評価と必要な支援の検討

支援者) 地域リハビリ推進室・デイサービスセンターつながる 木原
○○居宅介護支援事業所 ○○様

支援内容)

1. 自宅の屋内外の移動の評価と必要な支援の検討

- ①屋外) 玄関先に段差あり、排水のための深い溝もあるが、つかまることもなく移動している。
- ②屋内) 廊下の手すり以外設置なし。部屋出入り段差あるが、日常歩くこと転倒することはない。

屋外



屋内



2. 日常生活活動の評価と必要な支援の検討

- ①食事) 小高い座椅子に座り、居間にある高さ 20cm 程度の高さのテーブルで食事を摂る。

課題) 右手でスプーン・フォークを利用しているが、口に運ぶまでに食べ物をこぼすことが多い。

提案) ・テーブルの上に 20cm 程度の高さの置き、その上に食器を置くことで、お皿と口の間の距離が短くなり、食べ物をこぼしにくくなる。

- ・ スプーンやフォークの柄にゴムグリップをはめることで、握力が弱めでもスプーンなどを把握保持しやすくなる。



イメージ

- ②トイレ) 洋式で手すりなどもないが特に不便はない。
- ③入 浴) 高めの入浴椅子に座って洗身し、手すりはないが、浴槽にも出入りできている。暑い日は朝晩入浴し、自分で掃除も行っている(A)。
- ④着替え) 立ったまま着替えることができる。
- ⑤掃 除) 娘さんが買ってくれた◇◇メーカーの掃除機をこまめにかけている。
- ⑥食器洗浄) 両手を使って洗えている。
- ⑦洗 濯) 天気の良い日は、屋外の物干しに洗濯物を干している(B)。
課題) 物干しの場所に段差があり、転倒リスクがある。
右肩が十分上がらないため、洗濯が干しにくい。
提案) 物干し周辺の整頓および物干しの位置を下げる。
- ⑧調 理) 娘さんが料理したものを定期的に持ってきてくれる。時々、包丁を使った簡単な料理をしたり(C)、買ってきたパンなどを食べている。
- ⑨買 物) 週1-2回セニアカーで15分程度かけて〇〇〇や△△△へ買物行っている。また、娘さんとも出かけている。
- ⑩その他) 自宅にいるときもこまめに家事をしたり、自分でゴミ捨てに行ったり、床屋まで歩いて行ったりしている。



総 括)

娘さんの支援もあり、ご本人もできるだけ動くことで身体機能を維持し一人暮らしが継続できています。一人でなんでも行うことは大変でしょうとヘルパー利用を進めても「ヘルパーが入ることで、自分で出来ていたことが出来なくなることが不安」とお話される。ただ、「以前よりは歩く時に足が上りにくくなった、体力が落ちた、認知症がひどくなった」と心身機能の低下を実感されており、今後、デイでのリハビリ量の増加や一人暮らしを維持するための支援について、ご本人の意思を尊重し、継続検討が必要であると思われまます。現在、屋内外での転倒はないようですが、心身機能の低下を実感されていることから勘案すると、転倒リスク軽減のために、屋内の動線確保(整理整頓)、屋外の動線整備は近々の課題と考えます。



特定非営利活動法人 地域福祉ネットワークいわき
 地域リハビリ推進室 室長
 デイサービスセンターつながる センター長
 木原 秀樹 (理学療法士)